

科目責任者 大石 一彦（薬理学研究室）

■教育目的

本講では、ホルモン関連薬、代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用・機序を中心として講義し、それらの治療薬の有効性・安全性の薬理的基盤を学習していく。【卒業認定・学位授与の方針；YD-②】

■学習到達目標

ホルモン関連薬、代謝性疾患治療薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬などの薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。（知識）
薬物の相互作用、依存性・耐性、副作用、毒性について具体例を挙げて説明できる。（知識）

■準備学習（予習・復習）

予習：講義テキスト・参考書の該当箇所に目を通しておく（30分以上）。

復習：講義テキスト・参考書・演習問題等を活用し、講義内容を復習するとともに、関連事項について調べ知識を整理する（30分以上）。

■授業内容

No.	項目	授業内容	SBOコード
1	感染症と薬	抗菌薬	E2 (7) -①-1
2	//	抗寄生虫・寄生虫薬、抗真菌薬	E2 (7) -⑤-1 E2 (7) -⑥-1
3	//	抗ウイルス薬	E2 (7) -④-1～5
4	悪性腫瘍と薬	抗悪性腫瘍薬	E2 (7) -⑧-1
5	//	//	E2 (7) -⑧-1
6	//	//	E2 (7) -⑧-1 E2 (7) -⑩-1
7	感覚器に作用する薬	眼に作用する薬物 耳・鼻に作用する薬物 皮膚に作用する薬物	E2 (6) -①-1～3 E2 (6) -②-1 E2 (6) -③-1～3 E2 (6) -④-1
8	ホルモンと薬	ホルモン分泌異常症の治療薬	E2 (5) -②-2～4
9	//	//	E2 (5) -②-2～4 E2 (5) -③-1
10	//	性ホルモン関連薬	E2 (5) -②-1
11	代謝系に作用する薬	糖尿病治療薬	E2 (5) -①-1
12	//	脂質異常症治療薬 高尿酸血症・痛風治療薬 カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する治療薬	E2 (5) -①-2,3 E2 (5) -③-1
13	医薬品の安全性	薬物相互作用	E1 (1) -①-8
14	//	薬物依存性、耐性	E1 (1) -①-9
15	//	有害事象、副作用、毒性	E1 (4) -①-1,2

■授業分担者

野澤 玲子 (No.1～7)、大石 一彦 (No.8～15)

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

演習問題を解いて理解度を確認し、解説等によりフィードバックを行う。

学期末試験（90％）および出席状況・授業態度（10％）で総合評価を行う。

■教科書

必要に応じてプリントを使用

■参考書

『新 図解表説 薬理学・薬物治療学』菱沼 滋 著（医学評論社）

『薬理学－医薬品の作用』竹内 幸一 他 編著（廣川書店）

『NEW 薬理学』田中 千賀子 他 編著（南江堂）

『グッドマン・ギルマン薬理書（上・下）』 高折 修二 他 監訳（廣川書店）